

ほほえみ

新年にあたって ご挨拶

病院長 小林 正貴

最新医療を知ろう

もの忘れ以外の認知症の症状

メンタルヘルス科 科長・教授 ひがし しんじ 東 晋二

がん
特集 47

眼にできるがん!?

うえだ しゆんいちろう
眼科 助教 上田 俊一郎



入院・外来患者 満足度調査報告

● 職場探訪 -形成外科のご紹介-

● トピックス

● 新人挨拶

● 令和元年10月 医療連携懇談会開催さる

● 茨城県牛久警察署から感謝状を頂いて

● 最新のCTを導入しました

● クリスマスコンサート開催

● 令和元年度 がん教育講演会を実施致しました

● 医療連携紹介

● 市民公開講座のご案内

東京医科大学茨城医療センター

<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

発行日：2020年1月1日

発行人：病院長 小林 正貴

発行所：東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1 TEL029-887-1161 (代)

新年にあたって ご挨拶



病院長
小林 正貴

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては令和になって初めての新年を健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。日頃から、東京医科大学茨城医療センターに対しご支援ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。お陰様を持ちまして当センターは昨年10月1日に開院70年目の節目を迎えることができ、本年は心新たに気持ちで臨む1年となります。

元号は変わりましたが、当センターの基本姿勢に変わりはなく、これまで同様、茨城県南の地域中核病院として、急性期病院の側面からは、「救急医療」・「がん診療」・「小児・周産期医療」・「肝疾患診療」の政策医療に積極的に取り組んでゆく所存です。また当地域の高齢化も見据えて、医療・福祉の連携を強化し、地域包括ケア病棟を有効に利用し、国の勧める地域包括ケアシステムの構築にも、地域の基幹病院としての立場で積極的に参加していく所存です。また、国が主導し進めている「医療職の働き方改革」による教職員の勤務体制の再構築にも着手している最中ですが、この際には患者さんに不利益が生じないように対処していく所存です。

当センターの診療の基本方針は、1. 患者さんの権利の尊重、2. 医療サービスの向上と患者さんへの安全な医療の提供、3. 十分な説明と同意のもとでの医療、4. 地域との連携を密にし、地域への医療、保健、福祉の支援、5. 人間性豊かで信頼される医療人を育成、の5点です。これらの基本方針をさらに強固なものとするため、昨年は地域医療支援病院の承認を県知事から受けました。さらに本年は病院機能評価の受審を予定しています。

今後も地域の皆様に安全安心な医療を提供すべく、信頼される身近な大学病院として、教職員一同がワンチームとなり、誠心誠意頑張っている所存です。本年も昨年同様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。今年が皆様にとりまして幸多き年となることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

病院長 小林 正貴



最新医療を知ろう



もの忘れ以外の 認知症の症状

メンタルヘルス科
科長・教授



ひがし しんじ
東 晋二

日本の平均寿命は年々伸びており、2016年には約84歳に達しています。これは素晴らしいことですが、同時に年齢が高くなるにつれて苦手になることもあり、生活の悩みにもなります。その一つに記憶力があります。もの忘れが出てくると、これは認知症の始まりなのかどうか不安になります。それでは認知症とはどのような状態を指すのでしょうか？

認知症とは、職業上や日常生活で何らかの支障をきたし、介護を必要とする状態です。このとき、その原因が「認知機能」の障害であれば、認知症とされます。実はこの「認知機能」にはもの忘れ以外のものも含まれています。

図1の脳のMRI画像を見ましょう。記憶に関わる海馬という部分が、右の人では小さくなっていることがわかります。この海馬は毎日の記憶の更新に関わりあっています。私たちは、昨日やったこと、1週間前にやったこと、1ヶ月前にやったことを覚えています。今、この文章を読んでいることも、明日思い出せ

るでしょう。しかし、もしこの機能が不安定になったら仕事や日常生活で間違った行動が出てしまいます。認知症では約束を忘れていたり、昨日買い物したことを忘れていたりして、援助が必要になるわけです。

今度は図2の脳のMRI画像と血流SPECT画像を見てください。額のあたりの脳、前頭葉と呼ばれる部分が矢印の側で小さくなり、血流が低下しています。この部位の障害では毎日の記憶の更新に問題は出ませんが、状況判断や問題解決の障害が出ます。季節に合った洋服を選べない、料理の味付けや手順を間違

えるなど、もの忘れでは説明できない状況判断のミスが現れます。これは実行機能障害と呼ばれます。

この2つ以外にも「認知機能」は様々あり、それぞれ対応方法が異なります。当院で行われる2020年1月18日の市民公開講座でこの話をしますので、気軽に参加して頂けたらと思います。また、正確な診断には経験のある専門家の検査が必要です。メンタルヘルス科では画像検査と「認知機能」の検査、薬物療法や対応方法のアドバイスなどを行なっていますので、心配のある方は受診をご検討ください。

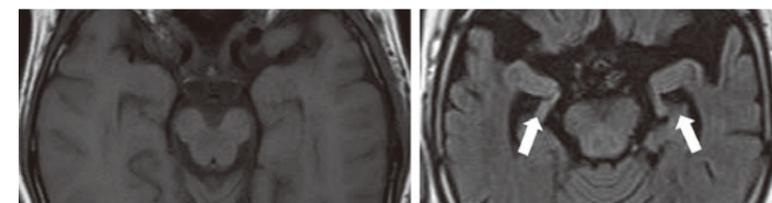


図1:右の方では、左の方に比べて、海馬(白矢印)が萎縮している(頭部MRI画像)

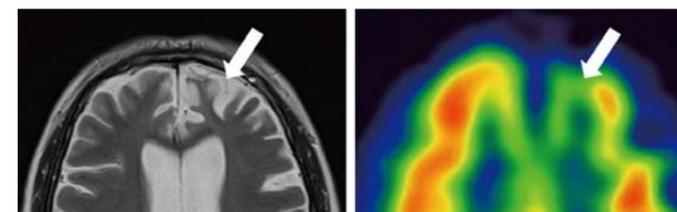
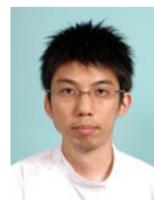


図2:白矢印の方の前頭葉が萎縮しており(左:頭部MRI画像)、脳機能低下を示す血流低下も認められる(右:脳血流SPECT画像)。



眼にできるがん!?



眼科 助教
うえだ しゅんいちろう
上田 俊一郎
日本眼科学会専門医

はじめに

「眼にがんなんてあるの？」
この記事を読むにあたって、多くの方がそんな風に考えていると思います。しかし、実際には日本で年間2000例程度のがんが眼球やまぶたに発生しており、かなり珍しいものの、6万人に1人の割合(阿見町の人口は約5万人)と考えると認識しておくべき病気です。この記事では、数多ある眼腫瘍の中の一部ですが、比較的頻度の高いものを紹介することで、眼の異常を感じた時に皆さんに「あれっ？」と疑う心を持っていただき、結果として早めの眼科受診につながる

ことを目指します。

まぶたの黒いもの

全身の皮膚と同じように、眼にもほくろはできます。皆さんの中にも、「昔からあるけど、大きくもならないし、気にしないようにしている。」という方がいるかもしれません。眼科の診療においてもまぶたや、結膜(白目)のほくろには良く遭遇しますし、そのほとんどが悪性ではありません。しかし、大きくなった時には要注意です。

ここで写真1Aをみていただきましょう。3か月前から大きくなってきたという下まぶたの

ほくろです。実は、これは基底細胞癌というがんです。がんとその周りを余裕をもって切除したため、最終的に下まぶたの3分の1を切除することになりましたが、写真1Bのようにきれいに治りました。

さて、次に写真2です。こちらでも2週間前から大きくなってきたという訴えがありました。写真1Aと似たような黒い腫瘍がありますが、こちらは脂漏性角化症という、いわゆるイボの仲間です。良性ですので必ずしも切除の必要はありませんが、ごくまれにがんが似たような見た目をするので、念の

ため切除したほうがいいでしょう。入院でなく、外来で簡単に切除手術が出来ます。そして、切除したものを細かく切って、顕微鏡で調べる病理検査をすることで、最終的な診断ができ、良性か悪性かがわかります。もし悪性だった場合は、先の基底細胞癌と同様に、改めてその周りごと大きく切除することになります。

まぶたの裏に!?

まずは写真3Aをみていただきましょう。上まぶたにしこりがあって、大きくなっているという方です。わかりづらいですが、まぶた中央部の皮膚に盛り上がりがあります。この方のまぶたをひっくり返すと写真3Bのようにキノコ状のできものがまぶたの裏にできていて、そのせいで皮膚が盛り上がっていました。これは脂腺癌というがんので大きく切除しなくてはなりません。眼科に行かないとまぶた

をひっくり返すことなどありませんから、眼科受診が早期発見のカギになります。

眼のなかにもがん

がんはこれまで紹介してきた眼の周りだけでなく、眼球のなかにもできます。この場合、見た目の変化は少ないですが、視力や見え方に異常がでます。写真4では悪性黒色腫というがんが瞳の奥にあるのが見えます。(白矢頭に囲まれたところががんです)このがんは眼球の中でキノコ状に大きくなっていくので、視界を遮ってしまい、視野が欠けるという症状がでます。また、悪性リンパ腫というがんでは、視界にもやががかかって見えたり、視力が落ちたりします。いずれも一般的な眼の症状ですが、その裏にはこのような病気が隠れていることがあるのです。そして、これらの病気ではしばしば命を落とすことがあります。しかし、最近では重粒子線治療

という特別な放射線治療や分子標的薬という新薬により、治療ができるチャンスが増えています。そのチャンスを活かすためにも、眼科受診による早期発見が重要です。

最後に

この記事では、さまざま眼のがんを紹介しました。眼のがんは珍しいので、特殊なものと考えてしまうかもしれませんが、何気ない症状の裏にがんが隠れていることもあります。そして、他の全身のがんと同様に、命にかかわる病気です。眼の異常を感じたら、早めに眼科を受診しましょう。早期発見ができれば、治療の成功率も上がります。

写真1 A



写真1 B



写真2



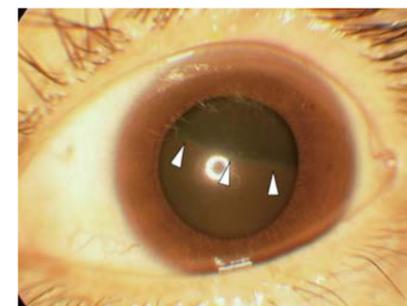
写真3 A



写真3 B



写真4





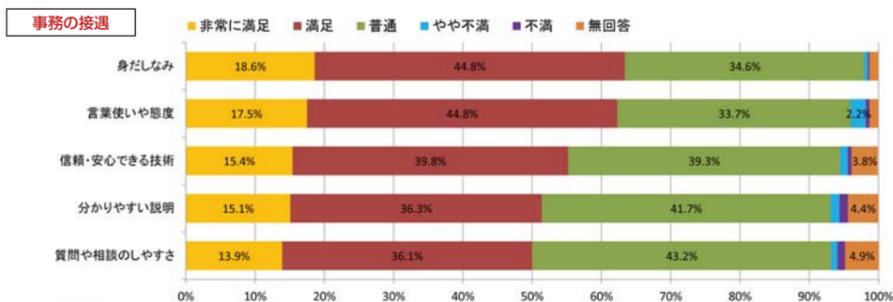
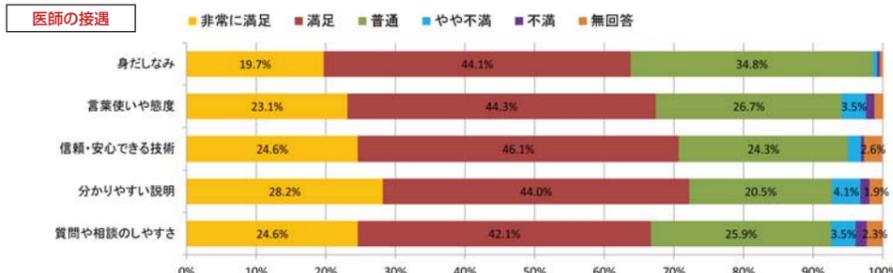
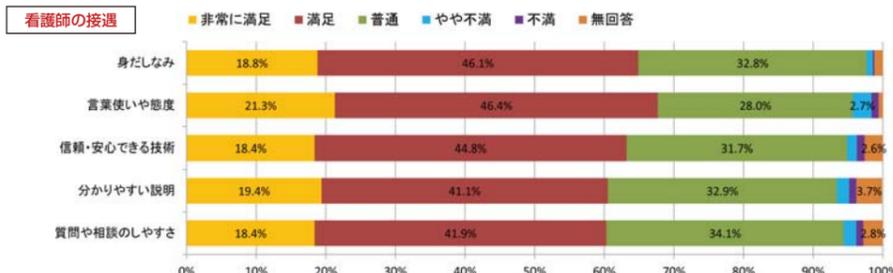
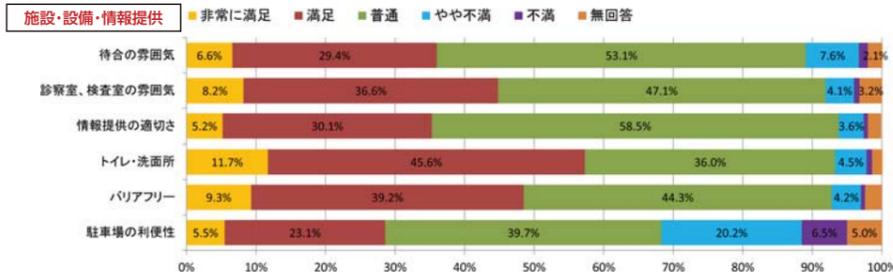
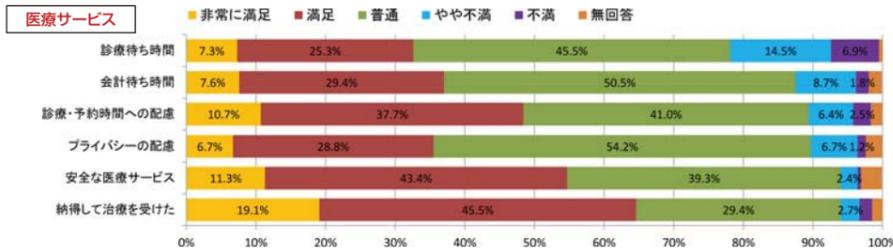
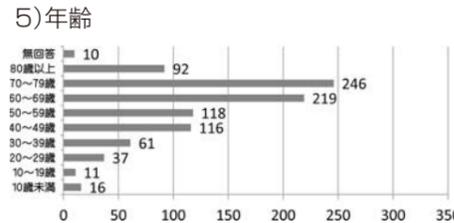
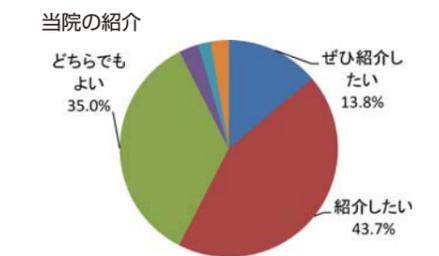
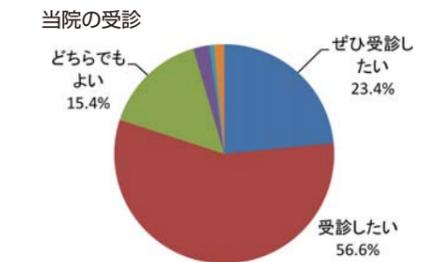
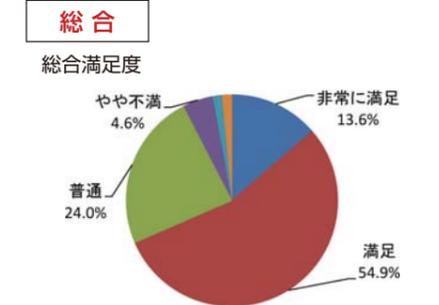
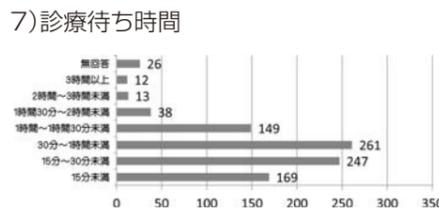
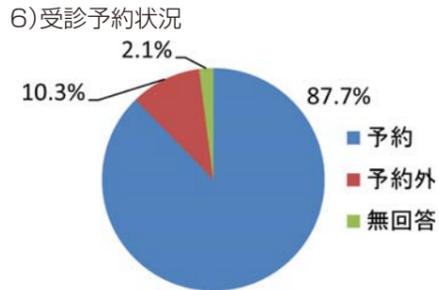
入院・外来患者 満足度調査報告

患者満足度調査の集計結果を報告させていただきます。この結果からこれからも患者サービスの向上に努めたいと思います。アンケートのご協力ありがとうございました。



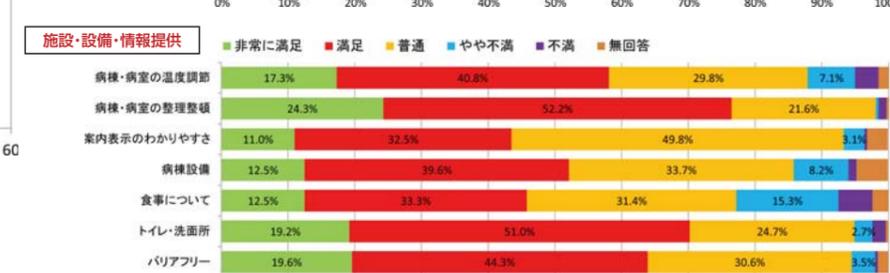
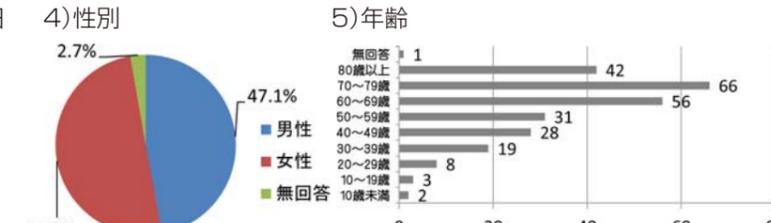
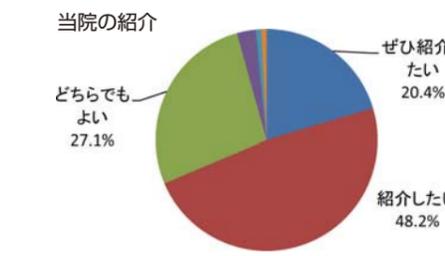
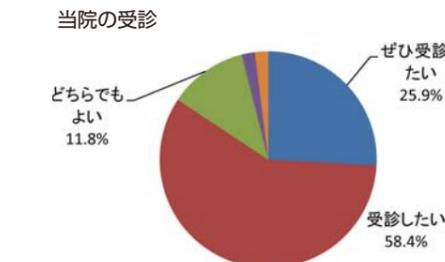
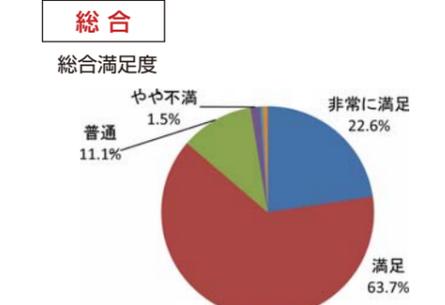
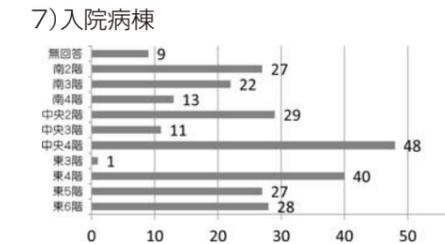
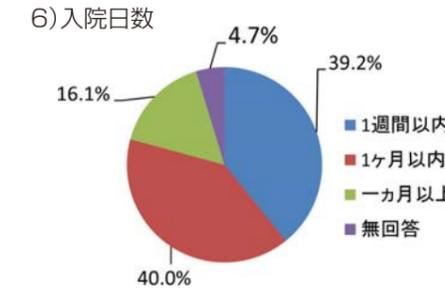
1. 外来患者

- 1) 調査期間 令和元年6月17日～令和元年8月31日
- 2) 回答数 1,045件
- 3) 有効回答数 926件、有効回答率 88.6%



2. 入院患者

- 1) 調査期間 令和元年6月24日～令和元年8月31日
- 2) 回答数 256件
- 3) 有効回答数 255件、有効回答率 99.6%



職場探訪



茨城医療センター 形成外科について

茨城医療センターの形成外科が診療を開始したのは昭和49(1974)年4月であり、整形外科外来のなかの特殊外来として発足しました。平成17(2005)年11月、東京医科大学形成外科学分野より担当医が赴任し、形成外科が診療科として独立しました。現在は形成外科専門医1名、後期研修医1名の2名で診療にあたっております。

診療は皮膚形成センターとして皮膚科と共同で診療を行うことにより、皮膚腫瘍などの臨床診断精度を高め、迅速に手術などの治療へ移行できております。他にも熱傷や四肢の皮膚軟部組織損傷、顔面骨折、瘢痕や変形の修正などを中心に多岐にわたっております。

他診療科との協力体制を十分にとっており、乳がん手術後の乳房再建や、口腔がん切除後の組織欠損に対する自家組織移植による再建手術なども症例数も増えてきております。その他外科系診療科で生じる皮膚軟部組織欠損にも形成外科的手法や技術を駆使し機能、整容両方に配慮した再建を行えるよう努めております。また足

形成外科のご紹介



趾の潰瘍性病変に対して、循環器内科や代謝内分泌内科などの内科系診療科とも密に連携をとり、並行して治療を行うことにより可能な限り下肢温存できるよう努めております。

患者様から安心して治療を任せて頂けるように、質の高い医療を提供できるように努力してまいります。今後とも当科に変わらぬご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(形成外科 科長 佐藤 宗範)



TOPICS -トピックス-

新人挨拶

2019年4月より東京医科大学茨城医療センター栄養管理科に管理栄養士として入職いたしました、小川紗季、青木佑夏です。入職して約8ヶ月が経ち、現在は主に患者様の栄養管理、食事管理の業務を行っております。入職した当初は、分からないことばかりで不安もありましたが、先輩方のご指導により日々の業務にも少しずつ慣れ、今では一人で様々な業務を行えるようになりました。

入院されている患者様には病態や治療により食欲が低下して思うように食事を摂ることができない方や、食べ物を嘔んだり飲みこんだりすることが難しい方もいらっしゃいます。そのような方々にも、できる限り食事を召し上がっていただけるように患者様の状態や嗜好をふまえて、その方にとって最適な食形態や食事内容を提案できる知識を身に付けていきたいです。また、栄養食事指導や栄養サポートチームなどの業務を担当し、患者様と直接お話する機会も



小川紗季

青木佑夏

増えていきます。そのため栄養に関する知識だけでなく、疾患に関する知識も必要となるため、志を高く持ち、幅広い分野に携われるような管理栄養士を目指していきたいです。

今後も患者様から信頼していただけるよう、より多くの知識や経験を得ながら、常に患者様の気持ちに寄り添う姿勢を大切にし、日々の業務に精一杯取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。

令和元年10月 医療連携懇談会開催さる

10月17日(木)つくば市のホテルグランド東雲にて、近隣病院医師、開業医、歯科医師、近隣市長村長、医師会、近隣消防本部(署)、医療連携室関係、法人より三木常務理事の出席を頂き、当センター医師・看護部・技師局・事務部で約300名超の参加で盛大に開催されました。

第一部は柳田副院長の司会により、最初に小林病院長の主催者代表挨拶があり、講演会は腎臓内科 平山教授より「急速進行性糸球体腎炎～歴史と展望～」メンタルヘルス科 東教授より「睡眠の指導と治療」の講演がありました。

第2部は懇親会として、古川副院長の司会により、法人代表として三木常務理事より挨拶を頂きました。来賓者を代表して茨城県医師会長、阿見町長、のご挨拶を頂き、稲敷医師会長の乾杯の音頭で賑やかに会は始まりました。日頃は電話でのやりとりしかしていない当センター医師と来賓医師とで、顔の見えない診療情報提供書や電話等での紹介だったものが、顔の見える医療連携を図ることが出来、専門分野・紹介患者の症



諸岡茨城県医師会長



千葉阿見町長

状等について活発な意見交換がなされ、親睦がより深まりました。また、懇親会の中で、土浦市医師会長、茨城県歯科医師会長よりご挨拶を頂き、各診療科長よりアピールをしてもらい、盛況のうちに閉会となりました。今後も顔の見える医療連携を図る場として、医療連携懇談会を開催していきたいと思っております。

医療連携 長崎洋一

茨城県牛久警察署から感謝状を頂いて

今回、夜間自宅への帰宅が困難となった高齢者の安全確保への行動が「警察活動への協力をした行い」として認められ、茨城県牛久警察署から感謝状を頂きました。

仕事帰り、ふらつきながら歩く高齢者とすれ違い、所作が不自然であり気になり車を止め声を掛けました。その高齢者は「帰宅しようとしたが辿り着けない。疲れて歩けない。」と答えましたが、何かその返答に疑問を抱きました。このまま帰宅を促すのは心配となり、一緒に交番へ行き、家人と連絡をとって頂くことのご理解を得て、交番へ案内し私は帰宅しました。後日、警察署から連絡を頂き、無事に家族のもとにお帰りになったこと、ご家族からのお礼の言葉を頂いたことを知らされました。ほっとした一瞬でした。

高齢人口の多い地域に住む住民として、日常的にありうる場面に偶然自分が遭遇したことで、改めて高齢化社会について考えることとな



り、地域住民の一員としてより周囲に気を配り、高齢者の安全と状況に合わせた対応が要求されることを再認識致しました。

今後も頂いた「感謝状」の重みをしっかり受け止めた行動や対応を心掛けていきたいと思っています。

総合相談センター 會田美恵子

最新のCTを導入しました

このたび、北関東(茨城、栃木、群馬、埼玉)で初となるキャノンメディカルシステムズ社製の最新 320列CT (Aquilion ONE/PRISM Edition) を導入しました。

この装置の大きな特徴は以下の3つになります。

①高速で広範囲な撮影を可能に、そして高画質に！
今までのCTと比べ撮影できる範囲が広く高速(最短0.27秒)で撮影ができます。

心臓CT検査や救急、小児の患者様など動きが激しく従来CTでは難しかった撮影で最大限に威力を発揮します。また、素早く撮影し撮影時の寝台移動量が減るため動きによる画像のボケが減り高画質となり、診断に有益な画像が得られます。

②放射線被ばくを最小に！

今話題のAI(人工知能)を駆使して画像を作成することで、従来に比べ、低線量で撮影できます。放射線の被ばく軽減により、これまで以上に安心して検査を受けて頂けます。



③物質の成分分析が可能に！

放射線の強さを変えて撮影をすることで、様々な物質の弁別が可能となり、更なる診断能の向上が望めます。撮影部位によっては、造影検査で体内に注入する薬の量を減らすことが可能となります。

これらの機能の他、様々な最先端の技術が搭載されており、当センターが自信を持ってお勧めできる最高峰のCT装置です。当センターのCT装置で、患者様の体に優しく、そして最高水準の精密検査を受けて頂けます。

クリスマスコンサート開催

12月16日(月)茨城医療センター外来ホールにてクリスマスコンサートが開催されました。午後1時30分よりコンサートに先立ち、サンタクロースに扮した小林病院長を先頭にトナカイたちが各病棟をまわり、患者様にプレゼントを贈りました。

午後4時からはマリンバ・オペラコンサートが行われ、病院に居ることも忘れるほど楽しい時間となりました。中でも、オペラの歌声が外来ホールに響き渡ると、その迫力から劇場のホールで聴いているかのような感覚になり、小さな子供たちから歓声の聲が上がりました。最後に、霞ヶ浦看護専門学校の学生によるキャンドルサービスが行われました。始まる前は、廊下でろうソクを持ち少し緊張していた



面持ちでしたが、いざ始まるとその顔からは笑顔があふれ、楽しそうに合唱をしていました。短い時間でしたが、たくさんの笑顔があふれる楽しいひと時となりました。

(臨床工学部 仲本敏之)



令和元年度 がん教育講演会を実施致しました

令和元年12月17日(火)牛久市立下根中学校(3年生・271名)への講師派遣依頼があり、消化器内科池上教授が「がんを寄せ付けるな!私たちにできることは!？」をテーマに講演会を実施致しました。事前に打合を実施し下根中学校でのがん教育の内容等を確認し、生徒から事前に質問を頂き講演会に望みました。講演後には、「がんにならないためにどうすればよいのか。がん治療の種類など、わかりやすい説明で講演が聴けた」と感謝の言葉がありました。

今回の講義により、健康の大切さ、がん予防の重要性、がんと共に生きる社会を築いていくことの大切さを理解していただけたと思います。

茨城県では、「がん教育総合支援事業」の一環として児童・生徒が、がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切な対処について理解で



きるように事業を実施しています。がんについて学ぶことやがんと向き合う人々の体験を聞くことで、自他の命の大切さを知り、自己のあり方や生き方を考える態度を育成することを目的として講演会を開催しています。今後も、積極的に講師を派遣して行きたいと思っています。

(茨城：総務課)



医療連携紹介

当院との医療連携登録医療機関を紹介するコーナーです。
第55回目は、ひたちのうしく眼科(牛久市)をご紹介します。

ひたちのうしく眼科

牛久市ひたち野東4丁目7-2
TEL 029-871-8355
FAX 029-871-8356

眼科・小児眼科



院長
やまもと としや
山本 敏哉

はじめまして。15年間勤めた牛久愛和総合病院を退職し、2016年にひたち野うしくで開業致しました。現在、超高齢化社会において健康寿命の重要性がさげばれている中、目の健康もまた重要な役割を担っています。見えづらいことが認知症発症の危険性にも繋がると考えられており、認知症予防や快適で充実したシニアライフを送るためのより良い視力を保持したいと思っております。当院では日帰り白内障手術はもちろんのこと、最新の検査機器を導入し、より迅速で正確な診断を行うと共に、検査結果をデータ化する事によって、患者様一人ひとりの所見の経過をより確実に観察する事ができます。些細な不安や不便に心から寄添い、安心を与えられるよう力の限り頑張ります。また、無限の可能性を秘めた子供たちの未来を守るべく小児の眼科医療にも力を入れていく所存です。地域医療も重視し、阿見町の医療の中核



を担っている東京医科大学茨城医療センターとの連携も深めて行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

診療時間 9:00~12:00
14:00~18:00

休診日 木曜・日曜・祝日

市民公開講座のご案内

第74回

「認知症へのかかわり方」 ~こんな時にはこうしよう~

講師:メンタルヘルス科 東 晋二

令和2年1月18日(土) 14:00~15:00

第75回

その痛みと発疹は「帯状疱疹」かもしれません 帯状疱疹の症状・治療・予防について

講師:皮膚科 川内 康弘

令和2年5月16日(土) 15:00~16:00

会場 東京医科大学茨城医療センター
医療・福祉研究センター1F 多目的ホール

入場無料
申込み不要

どなたでも
ご自由に参加できます

